



低薬量で高い効果。
プロが求める芝生用殺菌剤。

農林水産省登録 第21572号

芝生用殺菌剤

エメラルド[®] DG

Professional Turf
All You Need.

 **BASF**

The Chemical Company

ダラースポット病、 カーブラリア葉枯病の 予防と治療に高い効果。

エメラルドDGは、BASF社が開発した新規化合物（ボスカリド）を含有する新規殺菌剤です。
ダラースポット病・カーブラリア葉枯病（犬の足跡）に高い効果を示し、
病害発生前から発病初期までの幅広い散布適期を持ちます。

- ダラースポット病・カーブラリア葉枯病（犬の足跡）に卓効を示します。
- 予防および治療効果に優れ、強く孢子発芽を抑えます。また孢子形成を阻害し、2次感染を防ぐことにより、芝生における病害の蔓延を効果的に防ぐことができます。
- 効果が長続きするため余裕を持ってローテーション散布できます。
- 他の多くの殺菌剤とは異なる作用機作を持ち、他剤の耐性菌にも有効です。
- 植物体葉面から葉裏への浸透性に優れるので、葉先および葉縁への移行があり、散布ムラでも効率的に病原菌の感染を防ぎ、耐雨性にも優れます。
- 日本芝および寒地型芝草に影響がなく、いずれの芝種にも安全です。
- 有効成分を70%含む製剤なので、高倍率の散布が可能です。
そのため薬剤量は少量でも十分有効で、低水量散布器具にも対応しています。
- 溶けやすい水和性細粒なので、散布液の調製が簡単です。



成分・性状・物理化学的特性

一般名：ボスカリド (boscalid / ISO名)
試験コード：BAG-034WDG
化学名：2-クロロ-N-(4'-クロロビフェニル-2-イル)ニコチンアミド
系統：アニリド系
製剤：70.0% 水和性細粒
構造式：



安全性

人畜毒性（製剤）：普通物

ADI(1日許容摂取量)設定 0.044mg/kg体重/日

魚毒性（製剤）：A類

コイ	LC ₅₀ (96時間)	420mg/L
オオミジンコ	EC ₅₀ (48時間)	1,000mg/L以上

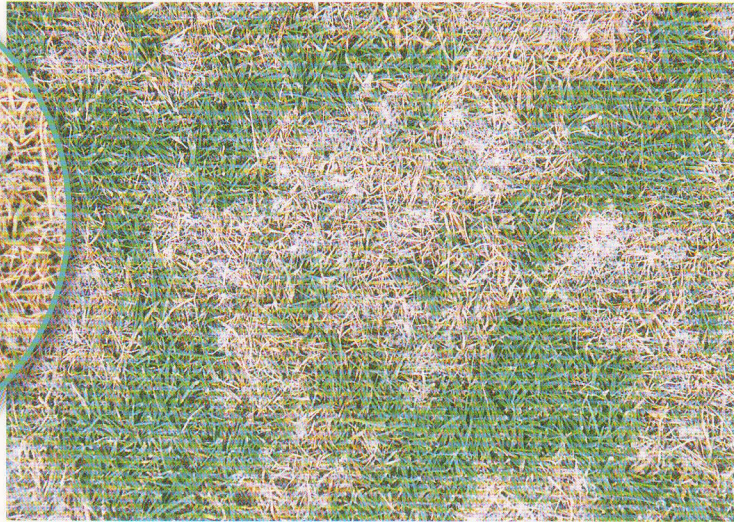
有用生物への影響

ミツバチ、キクヅキコモリグモ、タイリクヒメハナカメムシ、ヒメアメンボ、ヤマトクサカゲロウ、キイロタマゴバチ、ミミズへの影響は認められません。

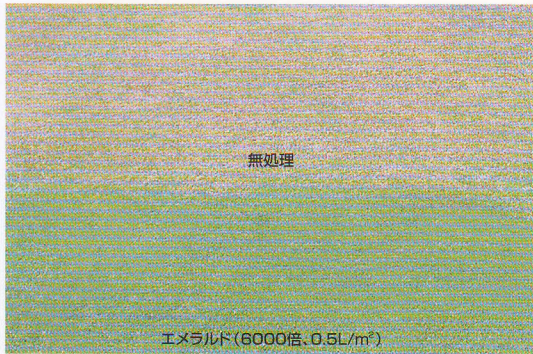
ダラースポット病に対する効果



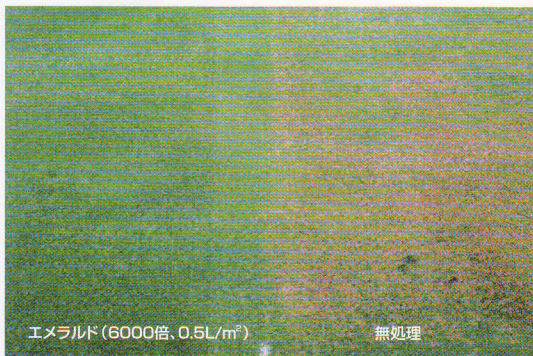
ダラースポット病



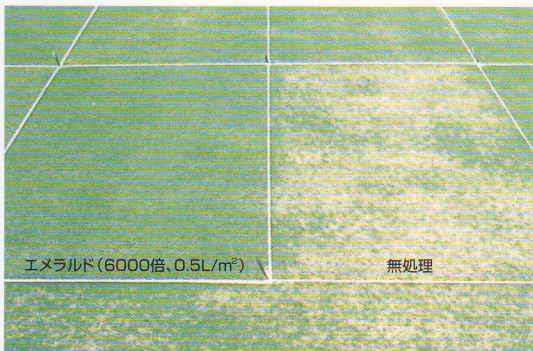
ダラースポット病防除効果 (2005年): 散布30日目



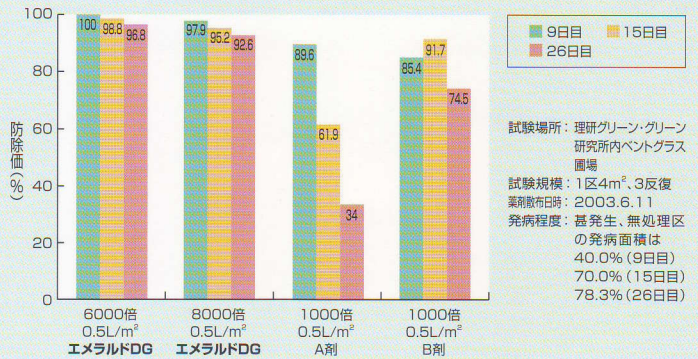
ダラースポット病防除効果 (2005年): 散布21日目



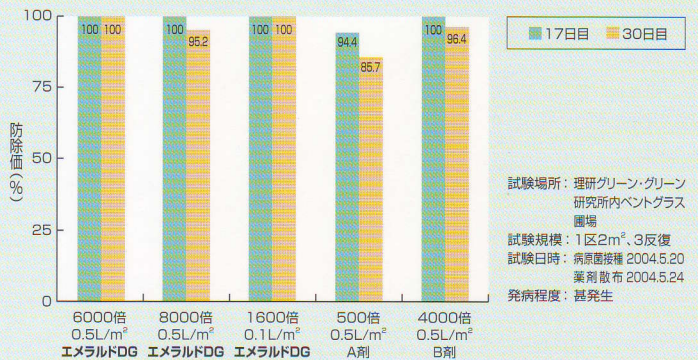
ダラースポット病防除効果 (2004年): 散布30日目



エメラルドのダラースポット病防除効果 (2003年、圃場試験)



エメラルドのダラースポット病防除効果 (2004年、圃場試験)

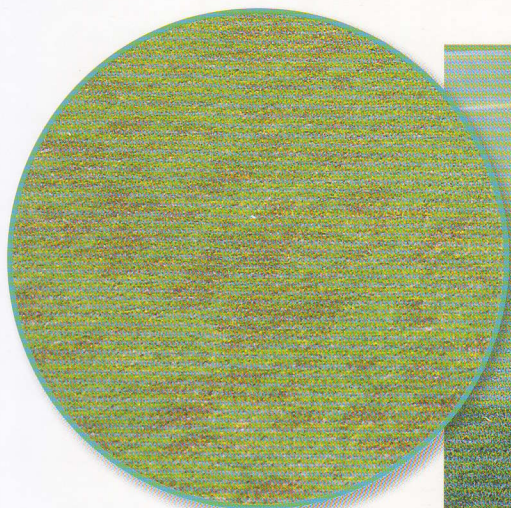


ベントグラス ダラースポット病防除効果 (2004年度委託試験)

薬剤	倍数 (x)	水量 (L/m ²)	防除値 (%)
エメラルドDG	6000	0.5	100
	8000	0.5	100
	1200	0.1	100
	1600	0.1	100

試験場所: 西日本グリーン研究所 (ベントグラスベント)
 試験規模: 1区1.5m²、3反復
 散布日時: 5月25日および6月4日
 調査日時: 6月11日
 調査方法: パッチ数のカウント
 無処理: 7.3個/区

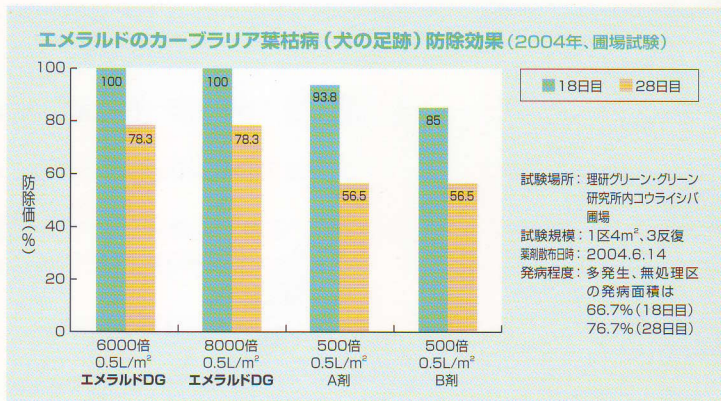
カーブラリア葉枯病に対する効果



カーブラリア葉枯病



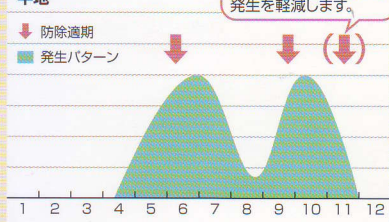
カーブラリア葉枯病 (犬の足跡) 防除効果 (2003年)



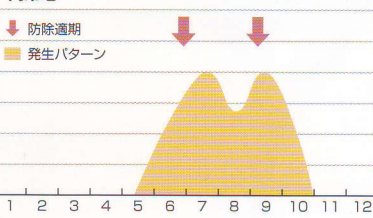
エメラルドDGの上手な使い方

ダラースポット病 / 病害の発生と使用適期

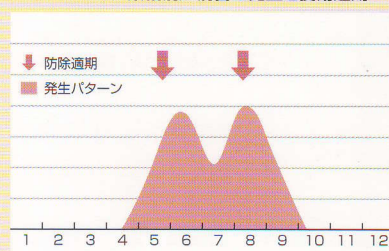
平地



高冷地



カーブラリア葉枯病 / 病害の発生と使用適期

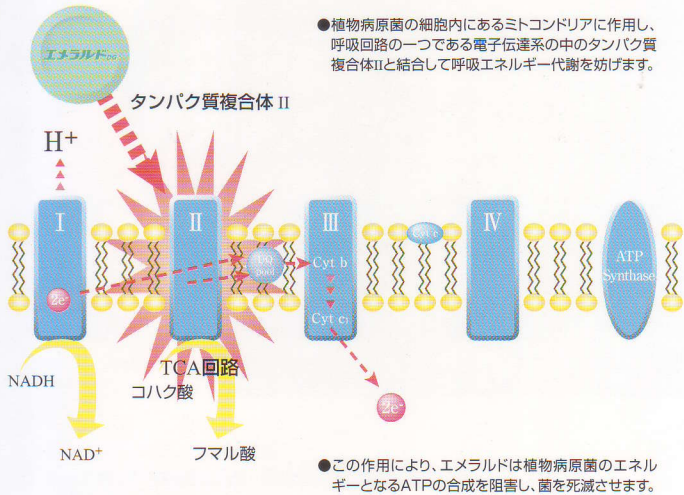


適用病害と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ボスカリドを含む農薬の総使用回数
芝 (日本芝)	カーブラリア葉枯病	3000~4000倍	250L/10a (250ml/m ²)	発病初期	3回以内	散布	3回以内
		6000~8000倍	500L/10a (500ml/m ²)				
芝 (ベントグラス)	ダラースポット病	1200~1600倍	100L/10a (100ml/m ²)	発病初期	3回以内	散布	3回以内
		6000~8000倍	500L/10a (500ml/m ²)				

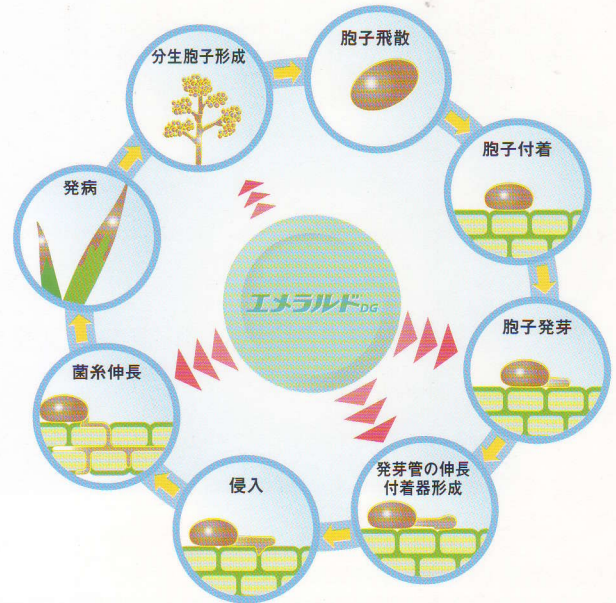
作用機作

- 電子伝達系のタンパク質複合体II (complex II) を阻害します。
- 新しい系統の化合物です。
- ストロビルリン系とは異なる作用機作です。
- 交差抵抗性はありません。



病原菌の生活環と作用点

孢子発芽、発芽管伸長および付着器形成を強く抑制し、菌糸伸長をも阻害します。また、孢子形成も阻害し二次感染も防止します。



浸達性および移行性

●一部は蒸散流により葉先、葉縁に移行します。

●一部がワックス層に吸着され、優れた耐雨性を示します。

●エメラルドは、根部からの吸収移行が確認されています。このため土壌に落ちた有効成分は土壌に吸着されますが、一部は根部から吸収され茎葉部を病害から守ります。

●一部は葉面に吸着され葉の裏面まで浸達します。

●薬剤がムラに散布されても効率的に植物体を守り、病原菌の感染防止に役立ちます。



芝生に高い安全性

エメラルドのベントグラスに対する影響 (2005年、圃場試験)

供試薬剤	倍数(×)	水量(L/m ²)	製剤量(g/m ²)	散布日			薬害				
				6/10	7/1	7/28	7/7	7/16	8/6	8/24	9/8
エメラルドDG	1,500	0.5	0.333	●			—	—	—	—	—
	3,000	0.5	0.167	●			—	—	—	—	—
	6,000	0.5	0.083	●			—	—	—	—	—
	1,500	0.5	0.333		●		—	—	—	—	—
	3,000	0.5	0.167		●		—	—	—	—	—
	6,000	0.5	0.083		●		—	—	—	—	—
	1,500	0.5	0.333			●	—	—	—	—	—
	3,000	0.5	0.167			●	—	—	—	—	—
	6,000	0.5	0.083			●	—	—	—	—	—
	750	0.25	0.333		●		—	—	—	—	—
	1,500	0.25	0.167		●		—	—	—	—	—
	3,000	0.25	0.083		●		—	—	—	—	—
300	0.1	0.333		●		—	—	—	—	—	
600	0.1	0.167		●		—	—	—	—	—	
1,200	0.1	0.083		●		—	—	—	—	—	

試験場所:理研グリーン・グリーン研究所内西ベントグリーン。試験規模:1区1m²、反復なし。散布日時:●は散布実施を示す。散布方法:水量0.5L/m²は園芸用細目ジョロ、0.25L/m²以下は加圧式噴霧器にて散布。調査方法:薬害症状とその程度を連観調査。*薬害程度:—(なし)、±(微)、+(少)、++(中)、+++ (激)および×(枯死)。

エメラルドのコウライシバに対する影響 (2005年、圃場試験)

供試薬剤	倍数(×)	水量(L/m ²)	製剤量(g/m ²)	散布日			薬害			
				6/10	7/2	7/28	7/16	8/6	8/24	9/8
エメラルドDG	1,500	0.5	0.333	●			—	—	—	—
	3,000	0.5	0.167	●			—	—	—	—
	6,000	0.5	0.083	●			—	—	—	—
	1,500	0.5	0.333		●		—	—	—	—
	3,000	0.5	0.167		●		—	—	—	—
	6,000	0.5	0.083		●		—	—	—	—
	1,500	0.5	0.333			●	—	—	—	—
	3,000	0.5	0.167			●	—	—	—	—
	6,000	0.5	0.083			●	—	—	—	—

試験場所:理研グリーン・グリーン研究所内西コウライグリーン。試験規模:1区1m²、反復なし。散布日時:●は散布実施を示す。散布方法:園芸用細目ジョロにて散布。調査方法:薬害症状とその程度を連観調査。*薬害程度:—(なし)、±(微)、+(少)、++(中)、+++ (激)および×(枯死)。

樹木に高い安全性

エメラルドの各種樹木に対する影響

科	樹種(学名)	薬害	科	樹種(学名)	薬害	科	樹種(学名)	薬害	
ブナ	ブナ(Fagus crenata)	—	バラ	シャリンバイ(Rhaphiolepis indica)	—	モクセイ	ネズミモチ(Ligustrum japonicum)	—	
	コナラ(Quercus serrata)	—		レッドロビン(Photinia fraseri)	—		トウネズミモチ(Ligustrum lucidum)	—	
	ウメカシ(Quercus phillyraeoides)	—		ツツジ	サツキ(Rhododendron indicum)		—	トウダイグサ	アカメガシワ(Mallotus japonicus)
	シラカシ(Quercus myrsinaefolia)	—	クスノキ	クスノキ(Cinnamomum camphora)	—		モチノキ	クロガネモチ(Ilex rotunda)	—
	ウラジロカシ(Quercus salicina)	—	ヤブニッケイ	Cinnamomum japonicum)	—		ミンハギ	サルズベリ(Lagerstroemia indica)	—
	アラカシ(Quercus glauca)	—	モクレン	モクレン(Magnolia quinquepeta)	—		スイカズラ	サンゴジュ(Viburnum odoratissimum)	—
マテバシイ(Lithocarpus edulis)	—	マツ	アカマツ(Pinus densiflora)	—		アベリア(Abelia × grandiflora)	—		
コデマリ(Spiraea cantoniensis)	—		クロマツ(Pinus thunbergii)	—		ニシキギ(Euonymus alatus)	—		
ユキヤナギ(Spiraea thunbergii)	—	ヒノキ	コノテガシワ(Thuja orientalis)	—		マサキ(Euonymus japonicus)	—		
ウメ(Prunus mume)	—		カイツカイブキ(Junipers chinensis)	—	アオイ	フヨウ(Hibiscus mutabilis)	—		
バラ	ウワミズザクラ(Prunus grayana)	—	ユキノシタ	アジサイ(Hydrangea macrophylla)	—	マキ	イヌマキ(Podocarpus japonicus)	—	
	ソメイヨシノ(Prunus × yedoensis)	—	アカネ	クチナシ(Gardenia jasminoides)	—	トベラ	トベラ(Pittosporum tobira)	—	
	シダレザクラ(Prunus pendula)	—	モクセイ	ライラック(Syringa vulgaris)	—	カツラ	カツラ(Cercidiphyllum japonicum)	—	
	カワツザクラ(Prunus lannesiana)	—		キンモクセイ(Osmanthus fragrans)	—	ツゲ	ツゲ(Buxus microphylla)	—	

散布方法:2005年4月~6月、萌芽~葉身が展開するまで。樹種により時期は異なる。600倍液(グリーン使用濃度の2倍量)を噴霧器にて薬液が降り落ちる程度散布。調査方法:—(薬害なし)、+(薬害あり)。薬液散布後1カ月間肉眼による経時的調査を無散布の枝葉と比較しつつ実施。

効果・薬害等の注意

- 散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えてください。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の運用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
- 散布の際は保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 公園等で使用する場合には、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう、縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害をおよぼさないよう注意してください。


貯蔵上の注意

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

販売取扱店

BASFアグロ株式会社

環境緑化製品部 〒106-0032 東京都港区六本木一丁目4番30号 六本木25森ビル
TEL.03-3586-9713

販売元:  株式会社 理研グリーン

〒110-0005 東京都台東区上野2-12-20 NDKロータスビル3F TEL.03-3833-6321(代)
仙台支店/022-222-9599 東京支店/03-3835-8134 静岡支店/054-283-5555
名古屋支店/052-262-2861 大阪支店/06-6871-1691 福岡営業所/092-752-8391
札幌事務所/011-756-3891 グリーン研究所/0538-58-1282